

十和田市立 新渡戸記念館だより



◀ 十和田市の中心街を流れる稲生川

一般投票で 全国1位!! 稲生川が『^{そ すい} 疏水百選』に

平成17年6月から農林水産省が“見つけよう！あなたの疏水”として全国に呼びかけ、投票などで選ばれた「疏水百選」が本年2月発表となり、稲生川がその一つに認定されました。選考過程で行われたインターネット等による一般投票では稲生川が全国疏水ベスト1位にランキングされ、その価値が再認識されました。

農林水産省が 稲生川土地改良区に認定証を授与

応募総数499カ所の疏水の中から絞り込まれた284カ所の候補についてインターネットとファックス・はがきによる一般投票、有識者からなる選定委員会の審査が行われ、110カ所が「疏水百選」に選ばれました。平成17年10月20日から12月11日に行われた全国一般投票への投票総数は約22万6千件で、稲生川はインターネット投票で4,975票、はがき・ファックス投票で4,831票の合計9,806票を獲得し、堂々1位にランキングされました。

平成18年2月22日(水)、稲生川を管理する稲生川土地改良区に対し、農林水産大臣から「疏水百選」の認定証が授与され、関係各所では記念イベントの開催を計画中です。当館においては、例年太素祭に行うクイズ大会と8月に予定している企画展について、稲生川上水ならびに疏水百選記念としての内容を考えています。

百選トップ10のうち 3疏水に関わった新渡戸七郎



新渡戸七郎

新渡戸十次郎の長男・七郎は、14歳の時から父と共に稲生川開削工事に携わりました。その経験を生かして、明治12年(1879)からは農商務省の土木技術者となり、安積疏水(福島県)や那須野ヶ原用水(栃木県)の工事に従事しています。安積疏水、那須野ヶ原用水は琵琶湖疏水

とともに“日本三大疏水”と呼ばれています。全国一般投票では那須野ヶ原用水が稲生川に次いで2位、安積疏水が10位にランキングされ、今回の疏水百選に稲生川とともに選ばれています。(2面につづく)



新渡戸十次郎

新渡戸 稲生

RABラジオ

月曜～金曜 13:15～13:20

十和田市人物伝「新渡戸四代記」放送中!

疏水百選

全国一般投票ベスト20位

1位	稲生川用水（青森県）	9,806票
2位	那須野ヶ原用水（栃木県）	9,144票
3位	群馬用水（群馬県）	6,899票
4位	北海幹線用水（北海道）	4,953票
5位	長野堰用水（群馬県）	4,882票
6位	差出堰（山梨県）	4,310票
7位	大堰<内川>（宮城県）	4,118票
8位	備前渠用水（埼玉県）	4,018票
9位	大堰川水路・立花頭首工（岩手県）	3,718票
10位	安積疏水（福島県）	3,158票
11位	奥寺堰（岩手県）	2,978票
12位	福岡堰（茨城県）	2,520票
13位	幸野溝（熊本県）	2,457票
14位	五郎兵衛用水（長野県）	2,424票
15位	両総用水（千葉県）	2,362票
16位	雄川堰（群馬県）	2,315票
17位	南阿蘇村疏水群（熊本県）	2,196票
18位	濃尾用水<犬山頭首工>（愛知県）	2,158票
19位	広瀬用水<広瀬川>（群馬県）	1,854票
20位	備前堀用水（茨城県）	1,852票

※投票数はインターネット・ファックス・はがきでの投票の合計です。

日本三大疏水

★安積疏水



場所：福島県／安積平野
水源：猪苗代湖
工期：明治12年(1879)～
明治15年(1882)

この水路の開削により、人口17,000人の小さな宿場町であった郡山が、人口135万人の大都会に。

★那須野ヶ原用水



場所：栃木県／那須野ヶ原
水源：那珂川
工期：明治18年(1885)
＜約5ヶ月間＞

日本有数の荒野・那須野ヶ原が、この水路の開削で明治の実力者達が経営する欧米式大農場へと変わった。

★琵琶湖疏水



場所：滋賀県・京都府／
大津市～京都市
水源：琵琶湖
工期：明治18年(1885)～
明治23年(1890)

京都の発展や日本の電力開発に大きな役割を果たした。

※写真は疏水百選ホームページ
<http://www.inakajin.or.jp/sosui/> より転載

平成17年度

太素顕彰会臨時理事会・評議員会開催

～当館運営への指定管理者制度導入を可決～

平成18年2月15日(水)、十和田市本庁議会会議室において、平成17年度太素顕彰会臨時理事会および評議員会が開催されました。臨時会では、当館運営への指定管理者制度導入と本会会則の改正について審議が行われ、平成18年度から副会長を2名に増員するとともに、太素顕彰会が市から指定を受けた指定管理者として十和田市立新渡戸記念館の管理運営を行うことが、原案通り可決されました。

更なるサービスの向上を目指し新体制となる太素顕彰会の活動に、これまで以上のご支援ご協力をお願いいたします。

上北地方農林水産事務所

「稲生川みずものがたり」

ホームページを開設予定

上北地方農林水産事務所では、地域の小学生を対象に稲生川の実地見学を通して、地域の農業の歴史を学んでもらう事業「稲生川みずものがたり」を平成13年度から実施していますが、その活動をまとめたホームページ「稲生川みずものがたり」が3月中に開設される予定です。ホームページでは見学の様子だけではなく、稲生川の成り立ちや当館をはじめとする見学ポイントについても詳しく紹介されます。

「稲生川みずものがたり」ホームページについてのお問い合わせは、上北地方農林水産事務所(TEL 0176-23-5245)までどうぞ。

特集

新渡戸稲造の著作より



新渡戸稲造

人生の美味
ここにあり

…親なり妻なり子なり、最も自分に近い故に最も自分に親しい情愛に基いて、己の日々の事務を怠らず、商人は商人、百姓は百姓、教師は教師、役人は役人と己の預っている職務に忠実にして、尚且つ思想は高く俗界を超越して、商人が金を造っても金を目的とせず、農家が肥料を施しても収穫以上に目的を置き、教師が教場に出ても、志を遠きに看做し、役人が執務するに、俗務のために没却されない、即ち一言に縮めると、吾人が人格者として全く世を離れた思想を抱くと同時に、常に世に対しては如何なる俗務と雖も之を尽し、私の度々いう垂直的關係と平面的關係との調和を始終図って行けば、つまらぬ努めにも深い意味のあることが解り、又深い意味のある思想が所謂つまらぬことに顕れて、人生の味が甚だ甘きを為すものである。

『家の光』昭和6年12月号掲載
「修養訓・人生の美味ここにあり」より抜粋
※田仮名遣いは読みやすくあらためました。



◀『家の光』昭和6年12月号
(第7巻13号)
発行：産業組合中央会
表紙：吉野二郎画「五位鷺」

新渡戸稲造「修養訓・人生の美味ここにあり」掲載部分見開き



月刊『家の光』はJ A全中(全国農業協同組合中央会)の前身である産業組合中央会の機関誌として、農村生活の向上と自立、相互扶助に基づく共存共栄社会の実現を理念に、大正14年(1925)創刊されました。内容は農業経済や生活情報などの実用的な記事にとどまらず、修養訓も多く掲載しています。

新渡戸稲造はこの雑誌への寄稿を積極的に行い、精神面からの農村文化向上を目指していました。またこの当時、稲造は故郷・岩手県の産業組合中央会岩手支会長に就任し、産業組合運動に力を注いでいました。

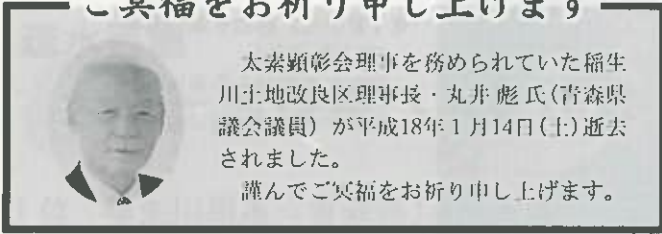
収蔵資料紹介



資料名：
南部領田名部海辺
御山絵図
サイズ：
縦52.0×横85.0(cm)

この資料は下北半島の楡山を記した絵図です。新渡戸傳は天保10年(1839)田名部他6カ所〔大植、宮古、野田(現岩手県)五戸、七戸、野辺地(現青森県)〕の御山奉行を務めており、それに関わる資料と思われます。

ご冥福をお祈り申し上げます



関 連 情 報

◆RABラジオ「新渡戸四代記」放送再開

平成16年3月29日(月)から9月30日(木)までRABラジオの十和田市ゆかりの先人たちを紹介する朗読番組「十和田市人物伝」(月曜～金曜/13:15～13:20放送)で放送していた“新渡戸四代記”(脚本:十和田ステージクリエイト会長・野崎能成さん)が平成17年10月3日(月)から放送を再開しました。この番組では新渡戸維民から七郎、稲造までの生涯を紹介する予定で、当館が監修を行っています。現在、新渡戸傳の商人時代のエピソードを中心に放送されています。



◀番組監修の基本資料となっている新渡戸傳の日記「新渡戸傳一生記」(当館蔵)

◆十和田警察署耐寒訓練を太素塚で実施

1月4日(水)十和田警察署(山本一雄署長)の耐寒訓練が太素塚境内で行われました。訓練では同署員55名が署から太素塚まで約3kmの道のりを歩き、傳翁墓前において、整列敬礼して今年一年安全安心なまちづくりにまい進することを誓いました。



◀太素塚墓前で敬礼する十和田署員のみなさん

◆別冊宝島『NITOBÉ 武士道を英語で読む』が新書化

平成16年4月に宝島社より出版された『別冊宝島994号 NITOBÉ 武士道を英語で読む』が好評のため、同出版社より持ち歩きに便利な新書サイズとなって、3月中旬に出版されます。宝島社から出版された本書は、新渡戸稲造の英文「BUSHIDO」の全文を収録するとともに、序文と本文17章の中心となる段落をピックアップして、単語の意味や英文を読み解く上でのヒントと日本語訳を掲載しています。各章の合間には新渡戸稲造の人物像を知



ることができるコラムやミニ年表も付けられ、大変充実した内容となっています。当館から新渡戸稲造の肖像写真や愛用品、直筆の書などの写真28点を提供しました。

◀別冊宝島『NITOBÉ 武士道を英語で読む』表紙

活 動 報 告

◆元朝参り

平成17年12月31日(土)午後11時から平成18年1月1日(日)午前1時30分まで、太素塚への元朝参り参拝者に甘酒、お神酒の無料サービスを実施しました。天候にも恵まれ、太素塚で新年を迎えようと、多くの参拝者が訪れました。

なお、さい銭箱に多くの浄財金が入っていました。大変ありがとうございました。



◀太素塚で元旦を迎える参拝者のみなさん



当館での学習は、青森県の生涯学習プログラム「あおもり県民カレッジ」の単位として認められます。県民カレッジについてのお問い合わせは、同事務局へ(TEL 017-762-1131)

〈編集後記〉

稲生川が疏水百選の投票の結果、全国1位で認定されました。これは市民の盛り上がりによるものと思います。4月からは指定管理者制度により市立新渡戸記念館の運営を太素顕彰会が行うこととなりますが、創意工夫して対応していきたいと職員一同意を新たにしています。

発行 太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL (FAX) 0176-23-4430
E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp
http://www.towada.or.jp/nitobe/
印刷 株式会社 岩間印刷